



筑波大学メールマガジン ペデじゃーなる 2021年 - 夏号 -

0G・0Bと学生を結びながら、懐かしさと新しさ香る筑波の風を
季節の便りとしてお届けしていきます。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆ INDEX ☆☆☆☆☆☆☆☆☆

1. 『学生と地域の絆』／磯良春佳
C3Lab.のタダ飯プロジェクト
2. 『コーヒー店で落語会』／山田優芽
且座(さざ)珈琲寄席随時開催中！
3. 『夏の温室をのぞき見』／吉永真理
筑波実験植物園の見どころをご紹介します
4. 『鰻っていつから食べられていた？ 古典文学から食生活を探る』／西村大祐
国立公文書館つくば分館 夏の企画展
5. 『筑波山「へ」のぼる 前編』／中村瑞歩
筑波山麓を散策
6. 『お気に入りの場所』／天野隼太
春日4丁目の田んぼを訪ねて



1. 学生と地域の絆



残暑の厳しい日が続いておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。つくばは今年も非常に暑いです。そんな中、ホットなプロジェクトをしている場所があります。

場所は天久保3丁目、1学からすぐ近くにコワーキングスペースとしてC3Lab.が4月にオープンしました。そんなC3Lab.が6月中旬からタダ飯プロジェクトを開始しました。同プロジェクトは、毎週水曜日に学生にお弁当を配るサービスです。C3Lab.のハトミさんにこの取り組みを始めたきっかけを伺いました。

ハトミさん「C3lab.が4月にオープンして多くの学生の協力をいただき運営をしております。そこで、筑波大生と関わりを持つようになり、大学生の現状を聞く機会が多くなりました。例えば、客として来てくれていた学生がオンライン授業になってあまりこのエリアにいないことや、アルバイトで必要な学生も確保できないことなど、新型コロナウイルスの影響で、飲食店も営業することが難しくなっている今、筑波大付近からは学生の数が減り、飲食店自体も大きな影響を受けていると感じました。」

街から今まで客の大部分を占めていた学生が減ることで、大学周辺の飲食店の売り上げが下がり、飲食店は人の雇用が難しくなるという悪循環が生まれます。これが非常に良くないと感じ、学生と関わりのある企業だからこそ、もっと学生のためにできることはないかと考え、同プロジェクトを始めたとのことでした。

当初は、1日10名程度の利用しかなく、大学公園南交差点まで出て必死にご飯を配っていたそうですが、現在では50食限定で午前中には全てなくなってしまうほどの人気となったそうです。

私も、先日お弁当を頂いてきました。その日は「本格おかずたっぷりの中華弁当」でした。メニューは白米に八宝菜、にんじんしりしり、ザーサイと品数も多く、「これが本当に無料？」と思ってしまうようなクオリティでした。とっても美味しく頂きました。



↑ 本格おかずたっぷりの中華弁当

仕込みや、調理場所の兼ね合いから50食が限界なのだそう。ハトミさんは「毎回配るた

びに学生に喜んでいただけることに非常にやりがいを感じております」と語っていました。

タダ飯プロジェクトを初めて約1ヵ月半、累計で200名以上の学生が利用しているそうです。その学生達とは、C3Lab.の公式LINEで繋がっており、将来的には学生を企業に紹介する（時給の高いアルバイトの紹介をする）ことを目標にしているとのこと。

「筑波大生は非常に真面目な方が多く、つくば市付近の企業ではそのことを認知されている企業も多いことがわかりました。その企業と働きたい学生をマッチングするビジネスにつなげて、より学生がこの街に馴染んでいただければと思います」

今回お話を伺って、タダ飯プロジェクトのきっかけや思いを知る中で、筑波大とその周辺の方々との絆を感じました。

(人文社会科学研究群 人文学学位プログラム1年 磯良春佳)



2. コーヒー店で落語会



さあさ、お立ち会い。ご用とお急ぎでない方は、ゆっくりと聞いておいで。

今回は「且座珈琲寄席」について紹介します。これは、サザコーヒー筑波大学アリアンサ店と筑波大学落語研究会が定期的に開催している落語会です。サザコーヒーが筑波大学落語研究会（落研）に出演を依頼し、「笑顔は万病の薬！コロナ禍で笑って免疫を高めよう」と始まった企画です。筆者は第1回（5月2日）、第2回（6月13日）、第3回（7月24日）と毎回鑑賞しています。落研の会員4人がそれぞれ新作落語や古典落語を発表し、観客はサザコーヒーのドリンク片手に落語を楽しむことができます。第3回は以下の演目で開催されました。

第3回且座珈琲寄席演目

高座名	演目
れいきゅうしゃふくろう 麗久舎吹蠟	親子酒
つくばていまくら 筑波亭茶倉	鶴
かわらやつら いよ 瓦屋面麗良	親の顔
筑波亭いけず	紙入れ

第3回の公演は、麗久舎吹蠟さんと筑波亭茶倉さん新入生2人の初舞台となりました。

筆者は最初、「和風の落語と、洋風なコーヒー店が果たして合うのか？」という疑問を持ちつつ来店しました。しかし意外にも、サザコーヒーの木のぬくもりを感じるインテリアとオレンジ色の光が高座の雰囲気ピッタリ合っていました。お話の世界に引き込まれます。

読者の皆様にも、落語会の雰囲気を感じてもらうために、第3回の様子を少しだけ紹介したいと思います。

出囃子の音楽が流れ、演者が高座に上がります。観客の拍手の中、一礼してゆっくりと顔を上げ、すうっと息を吸い込み、話し始めます。演者が落語の空間を作り上げた瞬間だと思いました。この日2番目の出演者、筑波亭茶倉さんが「鶴」を演じます。

「鶴はなぜ日本の名鳥なのか」という男の質問に、物知りのご隠居さんは「昔は鶴ではなく首長鳥と言っていた。なぜ鶴と言われるようになったのか分かるか」と問い、冗談半分に「一匹の首長鳥の雄が、ツーっと飛んで来て、浜辺の松へポイっと止まった。そこへ首長鳥の雌がルーっと飛んで来て、浜辺の松へポイっと止まった。それを見ていた老人がツルだと思ったから」だと答えます。早速これを友人に知らせたくなった男はご隠居さんの静止も聞かず友人に話しに行きますが、「雄がツールーっと飛んで来て、雌が…」と間違えてしまいます。もう一度ご隠居さんに聞き直し、友人の元へ戻るのですが「雄がツーっと飛んで来て浜辺の松にルーっと止まった。雌が…」とまた間違えます。最終的には「雌は黙って飛んできた」でオチとなります。

鶴のユニークな由来が、男の聞き間違いのために何度も繰り返され、その度に笑いを誘います。筑波亭茶倉さんが役中の男になりきり能天気な「ツー」「ルー」と言う姿に会場は笑いで包まれていました。話が進むにつれて、「ツー」と「ルー」という音の響きだけでも笑ってしまうことに不思議な気持ちにもなりました。話術に導かれ、落語の面白さを実感しました。



「ツル」の一声で笑いをとる筑波亭茶倉さん

この日最後の出演者、筑波亭いけずさんが演じた「紙入れ」は男女の色恋沙汰の話で、自然と耳が傾きます。……。サザコーヒーの公式 YouTube に開催の様子が上がっておりますので内容はそちらから各自ご確認ください。いけずさんの女役と男役の使い分けが巧みで、特に女役の動作や喋り方には引き付けられました。まるで本当に女性の方（それも媚びた感じの）が話しているように聞こえました。思わず息をのみます。



表情豊かに演じ分ける筑波亭いけずさん

ここでもう一つ、落語と同じくらい大切なものはサザコーヒーから提供される食べ物です。

第3回の入場料は、ドリンクとケーキ付きの1200円（税込み）。ちなみに第1回、2回はドリンク付きで1000円（税込み）でした。筆者はカステラショート（ショートケーキ）と抹茶ラテのアイスを注文。ケーキは「カステラ」と名につくだけあってずっしりと重みのあるスポンジとその上の上っている大きな苺が印象的でした。抹茶ラテは、甘すぎず抹茶の渋みを感じさせます。



カステラショートと抹茶ラテ

筆者は且座珈琲寄席をきっかけに初めてサザコーヒーに来店しました。それまでは、高級感のある店内に、自分には程遠い場所だと素通りしていたのです。「且座珈琲寄席」

では筑波大生の落語を聞くことができ、サザコーヒーのおいしいドリンクなどもいただけます。まさに一石二鳥です！誰でも気軽に来店することができますが、予約サイト「クービック」で予約しておくとお安心です。開催予定日は、サザコーヒーや筑波大学落語研究会の公式 SNS でその都度発表されますので是非ご確認ください。

また、これまでの公演はサザコーヒー公式の YouTube で閲覧することができます。

読者の皆様が且座珈琲寄席に行きたくなった（と思われる）この辺で、私の話は終わります。

お後がよろしいようで。

（人文・文化学群 比較文化学類 2 年 山田優芽）

3. 夏の温室をのぞき見

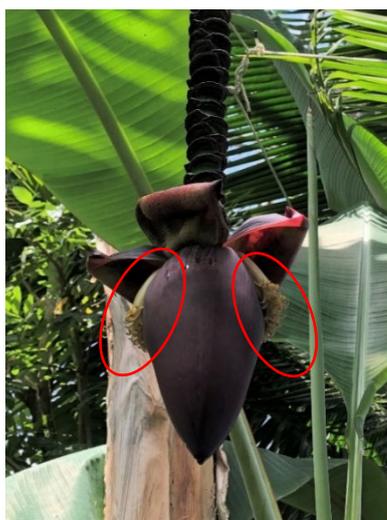


暑い日が続きますが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。昨年度に引き続き今年度もこのようご時勢で、出かける機会はめっきり減りました。学生最後の夏がもったいない！ということで、8月の平日、大学の近くにある筑波実験植物園に遊びに行きました。今回は、その中でも特に面白かった熱帯資源植物温室の植物をご紹介します。

一つ目はこちらの「アカバナナ」。温室に入ってすぐ右にあります。その名の通り、よく知るバナナとは違って実の部分が赤くなっています。料理用のバナナで、甘さだけでなく酸味があるようです。どんな味なのか気になりますね……。



長い茎の先にバナナの実がなっています



実の根本には黄色い花がついています（赤丸）

続いてこちらは「ツルイランイラン」といって、主に東南アジアに生育しています。かぎ爪のついた茎と黄色い花が特徴的です。こちらの花は、メロンに似た香りを放つようで、近くで嗅ぐとたしかに濃厚な甘い香りがしました。



花は全て下を向いて咲いていました



かぎ爪もありました

最後は、オウムバナ属（ヘリコニア）に属する2種をご紹介します。鮮やかな赤色の花序（花の連なり）に目を奪われますが、よく見ると花の向きが異なります。写真左側の種では、花序は茎からよきっと出て上向きに伸びるのに対し、右側の種ですと、しだれて下向きになっています。写真の下には種名を載せておきました。



珍しくて面白い植物を間近で見られる（しかも筑波大生は無料で！）素敵な植物園が家から自転車で行ける距離にあるというのは、嬉しいことです。学生のうちにたくさん見ておこうと思います。

現在は、コロナ対策として緊急事態宣言区域及びまん延防止等重点措置区域からの来園は自粛するようお願いが出ていますが、諸々落ち着いてつくばにいらっしゃる機会がありましたら、是非植物園にもお立ち寄りください！

国立科学博物館 大学パートナーシップについて

<https://www.kahaku.go.jp/learning/university/partnership/benefit.php>

(生命地球科学研究群 生物学学位プログラム2年 吉永真理)



4. 鰻っていつから食べられていた？

古典文学から食生活を探る



今年も国立公文書館つくば分館（つくば市上沢）の夏の企画展が開催されました。テーマは「たべものがたり—グルメな古典文学—」。古典文学の作品に描かれた当時の食について国立公文書館所蔵の資料を交えながら、パネル展示で紹介していました。

国立公文書館は公文書を保存・閲覧・調査研究するための施設。つくば分館は、省庁からの公文書などの受入れ増加や所蔵資料の多様化を受け、書庫などの拡充のために1998年7月に設置されました。現在は、紙媒体の公文書等の受入れから目録作成までをつくば分館で一元的に行っているそうです。ちなみに、東京本館は千代田区北の丸公園にあります。

実は、私は毎年夏の企画展を心待ちにしているうちの一人。つくば市内の研究機関などを見学する「つくばちびっ子博士」の一環で、小学生の頃から企画展を見に行っており、夏休みの恒例になっていました。ただ、昨年9月、つくば分館では書庫などの拡充のため閲覧室が閉鎖されていました。企画展も従来通り実施するかは不透明で、その行方を注目していました。今年は工事が始まっていないことから、開催することになったそうです。



国立公文書館つくば分館

最初のパネルで紹介されていたのは鰻。私が訪れたのが7月28日で、奇しくも土用の丑

の日だったので個人的にはタイムリーでした。『万葉集』にある大伴家持が詠んだ歌には、鰻が夏痩せに効くとあります。奈良時代の人も鰻の栄養価の高さを知っていたということに驚きでした。また、土用の丑の日は平賀源内によるものとされており、鰻といえば江戸時代というイメージがなんとなくあったので、奈良時代に鰻が食べられていたという事実も意外でした。

次に興味を持った食材は蛤（はまぐり）です。蛤にまつわる話が収められているのは『今昔物語集』。ある男は美しい蛤を見つけますが、誤って元の妻に贈ってしまいます。今の妻が「食べたかった」と悔しがると一方、元の妻は美しい和歌と一緒に蛤を男に送り返しました。男は元の妻の気品の高さを知り、心を入れ替えて元の妻のところに帰ることにしたという話です。食べ物を前にすると人の本性が露わになってしまうということなのではないでしょうか。食べ物の恨みは怖いともいいますので、気を付けなければなりませんね。

室町時代後期に描かれたとされる『酒飯論（しゅはんろん）』も興味深かったです。これは、酒が好きな公家と飯が好きな僧、酒も飯も適度に嗜む武士が、それぞれの立場から互いの優劣を競い合う様子を描いた絵巻物です。酒好きの公家・造酒正糟屋朝臣長持（みきのかみかすやあそんがもち）の屋敷を描いた部分では、酒宴が催されていることのほか、酒を仕込んでいる様子も見るすることができます。更に、絵の左側には酒を飲み過ぎてしまい嘔吐してしまっている人まで描かれています。私もサークルの先輩が悪酔いしている場面を度々見てきましたが、酒の粗相をしてしまう人がいるのは昔も今も同じということなのではないでしょうか……。



「酒飯論」の「酒好きの長持の屋敷」の部分の展示パネル

展示では、宗教観を背景にした食べ物の禁忌も紹介されており、現代とは異なる当時の人々の食べ物への向き合い方や考え方を知ることができました。しかし、それ以上に感じたのは、食べ物と人々の関係が昔も今もあまり変わっていないということ。栄養を取るために鰻は食べるし、酒で羽目を外し過ぎてしまう人もいる……。人と食べ物との関係には、時代を超えた共通性もあるのかもしれない。企画展は、茨城県に政府の緊急事態宣言が発令されたことを受け、残念ながら8月19日で終了してしまいましたが、この機会に古典文学を

食の観点から読み返してみてもいかがでしょうか。

(人文・文化学群 人文学類4年 西村大祐)



5. 筑波山「へ」のぼる 前編



筑波嶺の 峰より落つる みなの川

恋ぞつもりて 淵となりぬる

「陽成院」

上の歌、筑波大卒の読者の皆様には馴染み深い歌でしょう。小倉百人一首の13番で陽成天皇が、筑波山について詠んだ歌です。現代語では「筑波山の峰から流れ落ちるみなの川の水量が次第に増してついには淵となるように、私の恋心もはじめはほのかなものであったが、積もり積もって今では淵のように深くなったことだ」という意味で、恋心を川の流れに例えて詠まれています。

さて、古代万葉の時代から親しまれてきた筑波山ですが、読者の皆様も筑波山にはたくさん思い出があるのではないのでしょうか。テストも終わった休日の遅い朝に友達と集合、意味もなく筑波山を登って、下山して風呂に入って、家に帰って来て宅飲み。筑波大生なら絶対に一度はあるでしょう（筆者調べ）。

でも、筑波山「に」登ったことはあっても、筑波山「へ」のぼったことのある人は少ないのではないかと思います。筑波山といたら、車、はたまたバスで、門前まで行くものですよ。そこで、今回は、「筑波山『へ』のぼる」と題して、筑波山へ！というよりもむしろ筑波山の麓を筑波山に向けて行く道のりを紹介していきたいと思います。

スタート地点は、つくば市北条にある「つくば道の碑」です。つくば道とは江戸時代、筑波山の中禅寺改修工事が行われた際、木材運搬や職人たちの通行のため造成された道。寺は明治の神仏分離により廃寺となったが道は参道の面影を残し、「日本の道百選」にも選定されている筑波山への参道です（①）。石碑自体は新しいものですが、表には「これよりつくば道」と記されており、①の場所を起点に筑波山神社まで歩いて90分の緩い上り坂が、筑波山神社まで続いています。

歩き始めたのは午後4時ごろと少々遅い時間ですが、頑張って歩いていきました。



①つくば道の碑

つくば道を歩きはじめて約 20 分。次に訪れたのは、神郡にある「普門寺」です。ウェブサイトによるとその縁起は、「鎌倉時代末、元享年間（1321～1324 年）、筑波山麓一帯で布教活動が続けていた乗海大和尚によって開創された真言宗豊山派の寺院であり、慈眼山三光院普門寺と号し、御本尊は平安時代末の高僧恵心僧都御作とされる阿弥陀如来（秘仏）である」そうです。また、江戸時代末頃までは田舎本寺として、道場を構えて数多くの学僧を育成していました。

しかし、明治政府の廃仏毀釈によって荒廃し、昭和になって復興したものの、2009 年 12 月に原因不明の出火によって、本尊の阿弥陀如来と本堂が全焼、再建されたのが現在の本堂であるそうです（②）。



②普門寺本堂

普門寺は、筑波山麓地域の活性化にも熱心に取り組んでおり、筑波大とのコラボレーションも行っています。2019年10月5日から10月10日まで開催された、筑波山麓でつくば市ゆかりの芸術家が作品を展示する野外展覧会「ART SESSION TSUKUBA 2019 磁場-地場」では、筑波大の教員の作品が展示されていました。

また、普門寺は、「つくば市観光協力の家」として、地域活性化にも取り組んでおり、つくば道を歩く人に湯茶の接待をしてくださっているそうなのですが、私が歩いたのは午後5時ごろ、すでに夏の長い日も傾き始め、境内を見学するのみでした。もしこの記事を読んで「つくば道を歩いてみたい!」という方がいらっしゃったら、ぜひ立ち寄ってみたいかがでしょうか。

さて、歩いていたら時間も夕暮れ、書いていたら文字数もギリギリになってきてしまいました。「つくば道を歩く」といってまだ2箇所しか訪れていませんが、筑波山神社へのゴールは次の秋号で迎えられたらと思います。それでは。

参考文献

デジタル大辞泉プラス「つくば道」(最終閲覧日8月2日)

普門寺ホームページ < <http://www.fumonji-tsukuba.net/intro.html> > (最終閲覧日8月2日)

(生命地球科学研究群 地球科学学位プログラム1年 中村瑞歩)

6. お気に入りの場所



みなさんは筑波大周辺で、お気に入りの場所はありますか?この記事では、私のお気に入りの場所である、春日4丁目の田んぼについて紹介したいと思います。

私と田んぼの出会いは昨年7月に遡ります。当時の私は膨大な数の期末レポートと格闘していました。昨年は、新型コロナウイルスの影響で、入学式や新歓、宿舍祭(やどかり祭)など、新入生が楽しみにしていたイベントは全て中止。ほとんどの授業は、大学で講義を受ける対面形式から、自宅のパソコンで視聴するオンライン形式へと切り替わりました。そのせいもあり、気づいたら筑波大生になっていた私は、アパートにこもりオンライン授業と各授業から出される課題をこなす毎日を送っていました。そんな中で期末試験期間はスタートし、私はただただ焦っていました。三密回避のため、前年度まで期末試験で評価していた

授業も期末レポートを課すようになり、10 個以上のレポートが高校を卒業して間もない大学1年生に申し掛かりました。相談できる友達や先輩もほとんどおらず、レポートの構成や参考文献の探し方など、1人で考えるうちに気持ちはどんどん暗くなっていきました。

そんなとき、ふと窓を見るとそこにはきれいな夕焼けが広がっていました。心を突き動かされるままに私は自転車に乗り、その夕焼けがきれいに見える場所を探しに行きました。そこで見つけたのが春日4丁目の広い田んぼでした。まずはその時の写真をご覧ください。



夕暮れ時の田んぼ

田んぼはとても静かで、聞こえるのは用水路を流れる水の音と蛙の鳴き声のみ。夕焼けが水面に反射し、神秘的な空間を作り出していました。15分くらいぼんやりと夕焼けを見つめていた私は、自然と心が休まり前向きな気持ちになれました。その経験から、夕焼けがきれいな日はよくこの田んぼに通うようになりました。その日の雲の量や行く時間によって田んぼはその表情を変化させ、行くたびに違う景色を見せてくれます。

この田んぼの魅力は夕暮れ時だけではありません。夏になるとあたり一面が青田になり、涼しい風が頬を撫でます。また、さまざまな生き物たちとの新たな出会いもあります。用水路のザリガニ、稲穂の上を自由自在に飛び回る青トンボ、あぜ道を横断する亀、それらを狙って訪れるアオサギ……。運が良いときは、カワセミに遭遇することもあります。私は暑さが厳しくない早朝によく散歩をするのですが、そんな一期一会をいつも楽しみにしています。左下の写真は、散歩の帰り道にあぜ道で見つけたダリアです。花びらの間には、まるで休憩しているように虫がとまっていました。



あぜ道に咲くダリア



餌を探すアオサギ

期末テスト期間中、ひょんなことから見つけた田んぼは、今では私にとって大切な場所になりました。みなさんにも、きっとお気に入りの場所、心の故郷があるはずです。お忙しい毎日をお送りかと思いますが、コロナ禍が明けたら、ぜひお気に入りだった場所に再び足を運んでみてはいかがでしょうか。そこには懐かしい思い出と新たな発見があると私は信じています。

(人文・文化学群 比較文化学類2年 天野隼太)



編集後記

ペデジャーなる夏号をお読みいただきありがとうございました。長い梅雨が終わったと思ったら、夏らしい酷暑と長雨、そして本原稿を執筆している現在は東の間の青空が顔を見せています。

さて、今号では『学生と地域の絆』、『コーヒー店で落語会』、『夏の温室をのぞき見』、『鰻っていつから食べられていた？ 古典文学から食生活を探る』、『筑波山「へ」のぼる 前編』、『お気に入りの場所』の6本の記事が揃いました。「密」を避けつつ、夏休みを楽しむ「夏らしさ」があふれる筑波大生の今を感じていただけたら幸いです。

夏の暑さも今が盛り、これからは秋らしさを感じる空気になってまいります。読者の皆様もお体に気をつけて、ぜひ秋号も読んでいただけたらと思います。最後までお読みいただきありがとうございました。

(生命地球科学研究群 地球科学学位プログラム1年 中村瑞歩)





🔍 令和3年度筑波大学ホームカミングデーの開催について

筑波大学では、卒業生・修了生と教職員の交流を深め、本学の一層の発展に資する目的で、年に1度、筑波大学・図書館情報大学の卒業生・修了生、及びそのご家族を対象に、ホームカミングデーを開催しています。

今年度は11月6日（土）に開催する予定です。

詳細等は現在検討中のためお知らせすることはできませんが、決定次第、本メールマガジンを活用したり、ホームカミングデーWEBサイト、Twitter等のSNSにてご連絡いたします。

- ホームカミングデーWEBサイト

<https://hcd.sec.tsukuba.ac.jp/>

- 昨年のホームカミングデー（第1部オンライントークショー）

https://www.youtube.com/watch?v=v_Snr6ZI11M&t=5299s

- 第23回（令和2年度）ホームカミングデーを開催

<https://www.tsukuba.ac.jp/news/20201107135700.html>



昨年のホームカミングデー第1部オンライントークショーの1コマ

📍 卒業生×学長 オンライン飲み会

卒業生×学長 オンライン 飲み会



「学長と卒業生のオンライン飲み会」初めて聞いたとき、卒業生の皆さんは何を思いますか？「何それ？面白そう。」と思う方もいることと思いますが、「学長と話すことなんてない。何話したらいいか分からない。」と思う方が大半でしょう。

オンライン飲み会では、参加者が自己紹介をした後に学長に質問をしています。学長はどの質問にも楽しく回答し、最終的に他愛のない会話で締めくくられるのが恒例になっています。参加した方からは「楽しめた」「また参加したい」などの感想も多く、思ったよりも参加しやすかった印象です。

これまでに出了された質問は「学長の夢・目標は何ですか？」「最近買ったものは何ですか？」「きゅんとした出来事は何ですか？」などくだけたものから、「大学の経営ビジョンは何ですか？」や「こんな大学になってほしい」と真面目なものまで様々です。

この飲み会は昨年12月から開始し、6月末現在で合計24回、約170名にご参加いただきました。これをきっかけに数十年ぶりに友人と顔を合わせたという方もいれば、海外から参加される方も多いです。

是非、あなたも旧友と再会がてら学長と「つくばトーク」をして、学生時代の思い出や近況報告、学長へのプライベートな質問などで盛り上がってみませんか。

▼詳細、日程の確認等はこちら▼

(Japanese)

<https://hcd.sec.tsukuba.ac.jp/tsukubaonline/>

(English)

<https://hcd.sec.tsukuba.ac.jp/tsukubaonline/en/>

 筑波大学 公式ホームページ: <https://www.tsukuba.ac.jp/>

 筑波大学 facebook: <https://www.facebook.com/univ.tsukuba.ja>

 筑波大学 twitter: <https://twitter.com/futureship1>

 筑波大学 Futureship facebook:

<https://www.facebook.com/univ.tsukuba.futureship>

 筑波大学交流広場「KUTTUK ba」: <https://futureship.sec.tsukuba.ac.jp/alumni/>

(筑波大学生涯メールアドレス利用登録募集中！ ペデジャーなるのバックナンバーも閲覧可能！)

 筑波大学アプリ「TSUKUBA FUTURESHIP」:

<https://futureship.sec.tsukuba.ac.jp/futureship.app/>

 日経 VR「オープンキャンパス360～筑波大学～」

https://futureship.sec.tsukuba.ac.jp/NIKKEI_VR/

 編集・発行:「ペデジャーなる」編集ワーキンググループ

 デザイン・配信作業:国立大学法人筑波大学事業開発推進室

 ご意見・問い合わせ先:国立大学法人筑波大学事業開発推進室

〒305-8577 茨城県つくば市天王台1丁目1-1

TEL:029-853-2030 FAX:029-853-6576

メールマガジンの一部または全部を無断転載することを禁止します。

© 2021 University of Tsukuba.